

しちがはま

議会だより

No. 108

平成23年7月15日
宮城県七ヶ浜町議会



復興を誓って、前へ。
がれきを横目に(海から約2km)

平成23年6月15日撮影

空前の補正予算にいたしました 6

特集 1日も早い復興をめざして努力を 2

大震災の復興対策は・・・ 7人の議員
が一般質問 18

まちの復旧・復興に向けて

3月定例会は3月3日から11日までの10日間開催しましたが、最終日(11日)に発生した激しい地震による大津波で七ヶ浜町は甚大な被害を受けたため、議会だよりは発行できませんでした。今回は6月定例会(6月8日から6月10日)の内容と併せてお知らせします。

東日本大震災

町民の皆様にご心からお見舞い申し上げます。

3月11日に発生した東日本大震災により不幸にもお亡くなりになられた方々のご冥福を衷心よりお祈り申し上げますとともに、被災されました町民の皆様には心からのお見舞いを申し上げます。
今回の地震は東北の大地を激しく揺らし、大津波が沿岸部の街を襲い、規模、被害ともに想像をはるかに超える未曾有の大災害となりました。
本町におきましても、震災により多くの尊い人命が失われ、町土面積の32%が浸水し、沿岸地域は壊滅的な被害を受けました。
さらに、町民の皆様には、上下水道・電気・電話といったライフラインが寸断されるなど、大変不

自由な生活を強いられたものと痛感しています。
この震災による被害の復旧・復興には、多額の費用と年月を要することは必至であり、本町の行財政運営に与える影響は計り知れないものがあると考えます。
議会としましては、6月定例会において「大震災復興対策特別委員会」を設置し、大震災による災害への対策について調査・検討を重ね、一日も早い復旧・復興を目指す。
結びにあたりまして、不眠不休で災害復旧に従事されました各方面の方々に対し、深く感謝とお礼を申し上げます。

七ヶ浜町議会

- | | |
|-----|-------|
| 議長 | 阿部 慶也 |
| 副議長 | 梅津 栄一 |
| 議員 | 佐藤 梶信 |
| | 鈴木 初雄 |
| | 阿部 和夫 |
| | 歌川 國渡 |
| | 鈴木 久博 |
| | 糸妻 悦博 |
| | 我妻 正憲 |
| | 岡崎 勝美 |
| | 鈴木 初男 |
| | 渡辺 敏昭 |
| | 斎藤 初男 |
| | 千葉 敏昭 |
| | 大町 睦夫 |



手づくりの表札 (写真はR. S. Y提供)



東日本大震災

被災者支援を迅速に!!

くらし

見舞金などの支給を早く
町からの見舞金は5月末に支給。弔慰金・義援金などは6月中旬から支給が開始されます。

がれき処理を急ぐ
町は、七ヶ浜町建設安全協力会に委託して一日も早く処理できるように取り組んでいます。

雇用の促進を
国の緊急雇用創出事業で110人を町が雇用します。

農漁業復旧の指針を
国や県に対し、がれきの撤去や補修を早急に実施するよう強く要望しています。



きずな **絆** を大切に

すまい

仮設住宅の確保を十分に
421戸が完成し6月18日までに全世帯が入居しました。また、被災者の民間アパートなどへの入居に対し、県・貸主・入居者の三者間契約で賃料(家賃)の上限額内が保障されます。

被災地居住の方針は住民との対話で
町は、被災者が町内に住み続けることを前提に①元の場所に居住可能②市街化調整区域へ転居可能③高台などへの集団移転④住宅再建が経済的に困難な方への対策を示しました。

町営住宅の増設を
民間の賃貸住宅の整備で対応できない場合は、国や県などの制度創設や規制緩和などの動きを見ながら必要な住宅数の確保に努めます。

安心

心のケアとカウンセリングの場を
専門職とボランティア団体との協力体制で一元的な支援を行います。

職員の健康管理を
事務量の増大に対応するため、他の自治体から派遣の応援をいただいています。

安全

施設の再建を
被災した公共施設は学校給食センターなどで、早期に使用できるように強く要望しています。

道路などの修復を
がれき撤去後、修復工事を予定しています。

防災無線の見直しを
津波で多くの設備が壊れました。1日も早い復旧を進めていきます。



壊れた防災無線

議会は、甚大な被害をもたらした東日本大震災の被災者への対応として、各議員の意見を集約しました。そして5月16日、渡邊善夫町長に対し12項目の要望書を提出しました。
6月定例会を含めこれまでに判明した内容をお知らせします。

23年度補正予算

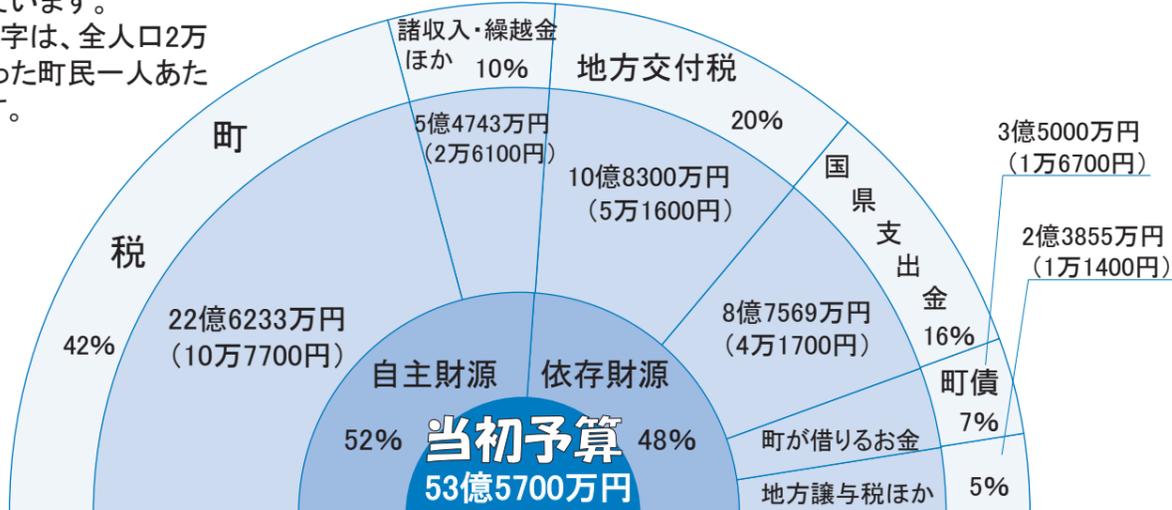
一日も早い復興をめざし大型補正

6月
定例会

金額は千の位で四捨五入してあり、合計にあわせて一部端数調整しています。

()内の数字は、全人口2万1000人で割った町民一人あたりのお金です。

歳入の比較



一般会計に 16億5761万円を追加

町長の提案理由から抜粋

3月11日に発生した東日本大震災によりお亡くなりになられた方々、被災された皆様そしてご家族の皆様により御見舞いを申し上げます。津波は七ヶ浜の美しい風景と多くの命、多くの町民の皆様の大切なものを奪い去り、私たちの心にたとえようの無い深い悲しみだけを残しました。しかし私たちは嘆いてばかりはられません。今こそ七ヶ浜の復興を誓って前へ力強く一歩踏み出そうと固く決意しております。

東日本大震災により甚大な被害を受けた本町は、仮設住宅への入居、がれき等の処理と復旧・復興に向け動き出しています。そのような中、6月定例会は6月8日から10日までの3日間の会期で開催しました。3月定例会で23年度の予算が決定しましたが、6月定例会では震災に対応した大型の補正予算を審議し、原案のとおり可決しました。本号では当初予算の内容と補正予算を比較してお知らせします。

がんばっぺ七ヶ浜



幹線道路のクリーンアップ(5月1日)

議会が注目する主な事業

災害救助対策

災害弔慰金・見舞金の早急な支払いを

問 支給があまりに遅い。いつになるのか。

答 地域福祉課長 町の災害見舞金は5月末に振り込んだ。その他は6月中旬から順次支給するよう努力している。

支給対象遺族の範囲がひろがる

条例改正で、災害弔慰金を支給する遺族の範囲が死亡者の兄弟姉妹にまで広がり、順位は配偶者・子・父母・孫・祖父母・兄弟姉妹の順となる。

被災児童・生徒へ教材を

問 どのような教材が渡されるのか。

答 教育総務課長 140人程度に支援品で支給された教材以外の教科書、副読本などが、具体的な品名は検討中である。



大事な教材を背に…

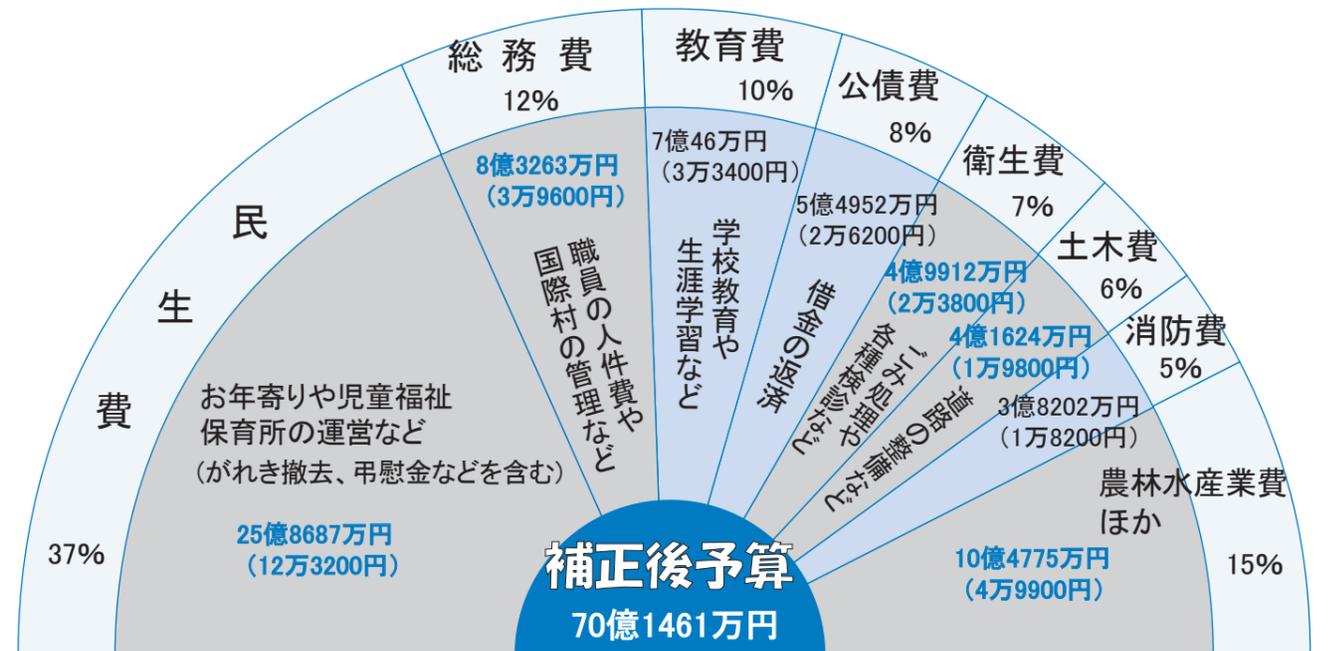
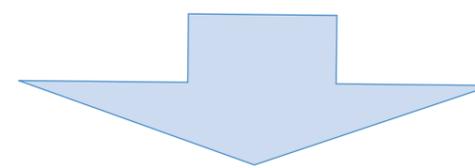
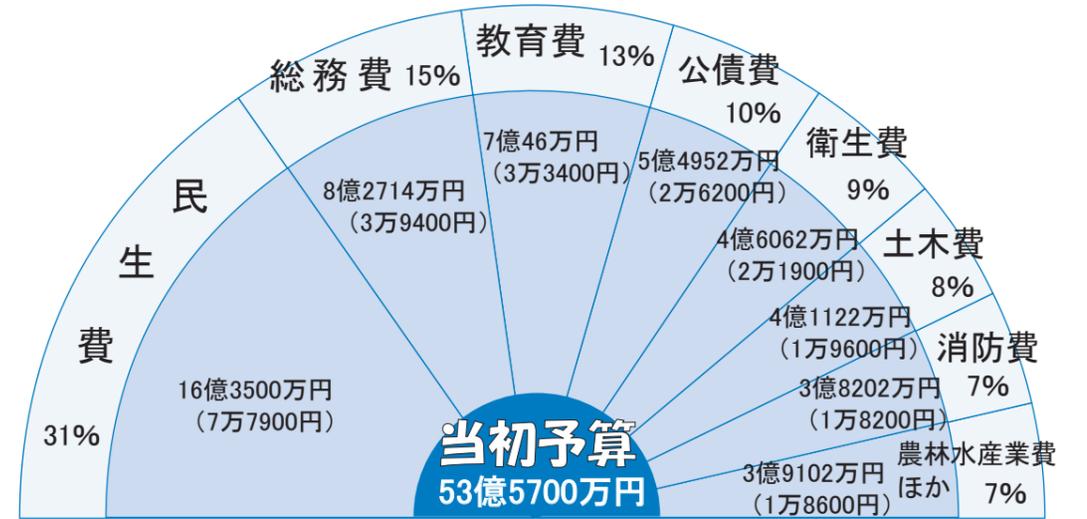
がれき撤去等の委託

問 がれきの量はどのくらいか。また財源は。

答 町長 様々な情報はありますが、30万トン程度と予想しており、最終的な費用は60億円を超えるものと思われる。財源は全額国の補助を考えている。

がれき撤去に3億6千万円 弔慰金等に4億6千万円

歳出の比較



緊急雇用対策

被災者を対象にした雇用は

問 職種は。委託先には被災者要件を明記するのか。

答 産業課長 一般職、事務職、技術職と3職種を扱う。八口ワークを通しては、被災者であることを明記する。

各種の緊急雇用創出事業を実施する。全体人数は110人を予定し、24年3月までの事業となる。

災害復旧対策

公共施設の被害調査・補修工事は

被害の大きい道路、漁港施設、学校施設、スポーツ施設などの被害状況を調査及び補修工事に多額の補正予算を計上した。



水産振興センター

予算審査

町から提案のあった平成23年度の各種会計予算を審査するため、特別委員会（梅津榮一委員長）を設置して3月3日から10日までの日程で行いました。各課ごとに説明を受けたあと、質疑・応答により慎重に審査しました。主な内容を要約してお伝えします。



梅津 榮一
委員長



岡崎 正憲
副委員長



補正予算の財源

基金からの繰入れ
 問 一般会計財政調整基金の約60%と多額（6億円）の繰入れを行っているが、今回の災害に関連して再度の基金取り崩しがあるのか。
 答 町長 国の補正を見越しての処置であり、基金に戻すこともありうる。

国・県からの補助額は
 問 今回の補正予算編成時の補助額は、約8億2300万円（補正額全体の約50%）となっている。

町長「次世代につながるまちづくり」を強調

環境美化

◆しちがはま環境大賞
 表彰対象に地球温暖化防止が加わったか。
 答 環境保全係長 本年度から3部門とした。
 ①環境美化部門（花いっぱい清掃）
 ②環境保全部門（リサイクルと温暖化防止）
 ③作品部門（啓発作品）

文化財保護

◆案内標識の設置
 問 町内56カ所の貴重な文化財を保護・周知対策の標識設置の内容は。
 答 生涯学習課長 本年は10カ所を予定している。アルミ製で高さ1.5m、25cmの角柱。名称、規模、歴史等を表示する。

奨学資金制度

◆保証人の取り扱い
 問 以前、町民から投書があった制度利用保証人（町内居住者に限定）の検討はどうなったか。
 答 教育総務課長 本年4月から、連帯保証人は家族、保証人は全国に広げることとした。



足湯でリラックス

職員の待遇

時間外手当の処理
 問 災害対応で過酷な条件のなかで職員は働いて来た。時間外手当の処理はどうしたのか。
 答 総務課長 職員組合と協議し実施した。

個人電話の使用料金の処理
 問 固定電話の不通により職員個人の携帯電話が相当使われている。電話料金の処理はどうしたのか。
 答 総務課長 個人からの申告に基づき調査をした。数人から申請があり、協議の上処理したが、協力をしてもらった。

災害救助費・復旧費関連のおもな内容

項目	事業内容	金額
東日本大震災関連事業	仮設住宅集会所電気料他	360万円
	災害廃家電等処分料他	2930万円
災害救助費関連事業	被災児童・生徒への教材支援	102万円
	避難所賄い用食材代等	2000万円
	がれき撤去等委託料	3億6000万円
	弔慰金・障害見舞金・災害見舞金	4億6375万円
災害復旧費関連事業	被災住宅の応急修理費	1億400万円
	道路復旧調査	5300万円
	漁港施設復旧調査	3000万円
	農業用施設復旧調査	500万円
	学校施設復旧調査	4000万円
	公共施設補修工事	8460万円
緊急雇用創出関連事業	環境悪化抑制事業（消毒液の散布等）他6件	1億1260万円

討論・採決の結果 可決しました

一般会計

反対 歌川 渡
 施政方針とこれまでの町行政の運営を見ると言葉と事業の実施に開きがあると疑問を持たざるを得ない。新年度予算には福祉関係、地域産業の育成などの施策が十分に反映されていない。
賛成 我妻 周悦
 新しい基本理念の実現に向け長期的展望に立ち、産業振興、福祉の充実、行財政全般にわたり効率的に取り組む予算と評価される。

他にも討論がありました

下水道事業特別会計
 反対 歌川 渡
 賛成 鈴木 初雄

国民健康保険事業特別会計
 反対 歌川 渡
 賛成 千葉 志美枝

介護保険特別会計
 反対 歌川 渡
 賛成 糸久 博

後期高齢者医療特別会計
 反対 歌川 渡
 賛成 佐藤 梶信

水道事業会計
 反対 歌川 渡
 賛成 阿部 和夫

議決結果はいずれも賛成14・反対1で可決

議案審議

がれき等の処理を委託 七ヶ浜町と宮城県が契約



七ヶ浜中第2グラウンドの浄化槽

●仮設住宅の浄化槽使用料を制定
使用者から使用料を徴収し、下水道利用者と同等の扱いとするものです。

条例制定

●災害等廃棄物処理の事務委託
廃棄物の分別、保管、収集、運搬、再生処分等を県に委託できるようにするものです。

委託

6月定例会では条例改正など10件（専決処分6件）と議員提出議案1件を審議し、すべて原案のとおり可決・承認しました。

条例改正

●災害弔慰金の一部改正
弔慰金を支給する遺族の範囲に兄弟姉妹を追加し、順位は死亡者の配偶者・子・父母・孫・祖母・兄弟姉妹の順となります。



山に積まれた災害ごみ

議員提出議案

●議員の費用弁償を支給しない
復興財源の一部に充てるため選挙期日等の臨時特例の任期中は費用弁償を支給しないことになりました。
また、常任委員会旅費と政務調査費の返上を協議しました。

人事

農業委員を推薦

再任 渡邊 庄哉 氏
（菅蒲田浜）
再任 三浦 康市 氏
（松ヶ浜）
任期は平成23年7月20日から3年間です。

人権擁護委員の推薦に同意

再任 星 徳光 氏
（菅蒲田浜）
再任 伊藤 せい子 氏
（代ヶ崎浜）
任期は平成23年10月1日から3年間です。

補正予算

平成22年度、23年度の上下水道会計補正予算5件（専決処分4件）を審議の上、原案のとおり可決・承認しました。内容はポンプ場改築など東日本大震災復旧が主なものです。



復旧が待たれるポンプ場（松ヶ浜）

上・下水道の復旧に

質疑

下水道事業

問 施設の被害状況は。

答 水道事業所長 ポンプ場12カ所中10カ所が被害を受けた。復旧はポンプ場が10億円、汚水管関係に20億円と見込んでいます。

問

施設の復旧計画は。

答 2カ年でポンプ場の修復を、併せて汚水管も同時に進めていく。5年計画である。

水道事業

問

飲料水給水活動の委託先は。

答 水道事業所長 日本ウエスタン商事で3月17日から3月31日までの15日間である。

問

給水活動の応援自治体は。

答 静岡県の藤枝市・磐田市・袋井市、宮城県の大郷町、大衡村である。

討論

反対 歌川 渡

専決処分をするほど議会を招集する時間的余裕がなかったのか。

賛成 齋藤 敏昭

震災の被害状況を考えると全てが大変混雑しており難しいと思われる。

議決結果

賛成14・反対1
賛成多数で承認

お も な 内 容

下 水 道 事 業 会 計			補 正 額	採決の結果
22年度（第4号）	歳入	一般会計繰入金 使用料を減額	2 2 8 9 万円 △ 1 9 0 9 万円	※賛成多数で承認 賛成14 反対1
	歳出	汚水汲み取り委託料	1 6 0 万円	
23年度（第1号）	歳入	一般会計繰入金	7 9 3 1 万円	※反対なく承認
	歳出	汚水運送業務委託料	2 9 6 万円	
23年度（第2号）	歳入	各ポンプ場仮設制御盤設置工事等	4 億 2 4 0 0 万円	反対なく可決
	歳出	国からの補助金 ポンプ場改築工事	2 億 1 3 0 0 万円 6 億 3 7 0 0 万円	
水 道 事 業 会 計			補 正 額	採決の結果
22年度（第2号）	収入	水道料金3月分の減免	△ 4 2 0 2 万円	※反対なく承認
	支出	給水活動委託料	1 8 4 万円	
23年度（第1号）	収入	一般会計繰入金	3 0 0 0 万円	※反対なく承認
	支出	配水施設修繕費等	2 5 2 0 万円	

これも議会の仕事です

- 総務常任委員会・・・災害時の避難路と避難場所(避難所)の安全確保
- 教育民生常任委員会・・・教育環境と学力の現状
- 産業建設常任委員会・・・町観光の促進策
- 議会運営委員会・・・議会活性化に向けた取り組み
- 議会広報調査特別委員会・・・議会だよりのレベルアップ

総務

防災対策は 横断的な取り組みが必要

平成22年度、本委員会は所管事務調査事項の「災害時の避難路と避難場所(避難所)の安全確保」に取り組んできました。以前に町内28カ所の避難所を現地調査した結果の指摘事項を、総務課(防災対策室)から説明を受けました。

その結果、年次計画で対応できるものと、必要に応じ修繕などの対応を検討するとの回答を得ました。防災対策としての機能を考えた場合、大半の建物が避難所としての安全確保が保たれていることを確認しました。担当課以外が管理する施設



高台へと続く避難路



避難所の現地調査

等も多数あることから、今後はより一層の柔軟で横断的な取り組みが必要と思われまます。

所管事務調査の終結に伴い、委員全員で総まとめを行いました。

その結果、委員会代表として3月定例会で一般質問を行い(P.27)町の考えをたできました。

教育 民生

学力向上は 学習・生活習慣から

平成21年5月から所管事務調査事項「教育環境と学力の現状」に取り組まれました。これまでの調査を総括し、これからの遅くない学力向上に役立つ

立つ「百年の大計」を取りまとめました。**教育環境** 他県の市町村の取り組みと比較しても、充実していると考えられます。



しっかり食べよう朝ごはん

学力の現状 平成19年から実施された、全国学力・学習状況調査(学力テスト)の経過を観察しました。一部向上改善された傾向もありませんが、著しい向上が見られなかったようです。(努力はしているが長い目で今後に期待)

学習・生活習慣 ○読み・書き・計算の基礎教育の充実が必要である(支援体制の確立)
○早寝・早起き・朝ごはんの励行(脳に活力を与える)
○心豊かな子どもたちの育成

産業 建設

町観光の促進策 近隣市町を視察

平成21年からの2年間にわたり所管事務調査事項を「町観光の促進策」として、調査・協議を重ねてきました。以前の委員会では町内および近隣の観光資源を調査した結果、市町間の連携が重要であるとの結論が出ました。今回はそれらの活用方法、近隣市町の観光ルートづくりや観光客の誘致策、連携策を調査しました。二市二町(塩竈市、多賀城市、利府町、松島町)ならびに秋田県羽後町を訪ね現状と対応を視察し、さらに本町観光協会との意見交換を通じ、次のように総括しました。



しおがま・まちな駅

○単独の観光誘客は難しく連携を必要としていると言っ共通の認識があること
○専門的な知識のある人材の確保と旅行代理店などとのタイアップが必要であること
○地場産品による「おみやげ店」の存在を重視していること

○体験型プランの企画や開発に力点を置こうとしていること
○特に大切なのは「おもてなしの心」であること
○観光客が何を求めて来るとのかを考え、何を提供できるのかを準備しておくこと

以上の点を本町でも実践できれば観光の連携は大きく進むものと確信しました。

震災復旧・復興に向け 特別委員会を設置

議会運営

議会報告会の開催をめざしつつ



会議内容を地域で報告します

これまで「議会は何をすべきか、どうあるべきか」を自らに問い議会改革と活性化に着手してきました。議会が地域に向いて直接町民に議会の

運営、活動状況等の報告や意見、要望等を聴取する機会として「七ヶ浜町議会報告会」の開催要領（案）を作成しました。概要は、次のとおりです。

- 実施時期
 - ・年2回程度を予定
 - 報告内容
 - ・一般質問の内容
 - ・予算、決算の審議状況等
 - ・常任委員会の報告
 - 周知方法
 - ・チラシの配布と防災行政無線を予定
- 本年度から改選後の体制で開催の予定でしたが、この度の東日本大震災で4月に予定されていた選挙が特例法で延期になりました。国の対応や、甚大な被害を受けた本町の現状を踏まえ開催の可能性を慎重に協議し「改革と活性化」に取り組んでいきます。

議会広報

震災による108号発行延期をお詫び

議会だより108号は家庭配付を4月15日に予定していましたが、3月11日の未曾有の大震災で各議員も救援活動に奔走編集は無理と判断しやむなく発行を延期しました。今回108号としてお届けしますのでご理解をいただきお詫びとさせていただきます。

頼する町民参加型の編集が行われ大いに参考になりました。

第25回町議会広報全国コンクールでは「しちがはま議会だより102号」が最優秀賞に選ばれさらに宮城県のコンクールで「106号」が特選を受賞しました。ダブルのトップ受賞はこれからの発行に大きな励みとなります。

2月10日、南三陸町から視察のため8人の広報委員が来町され、予定時間を超えた熱心な研修が行われました。南三陸町は本町同様3月11日の震災で多くの犠牲者や家屋流出など暗然とする被害



南三陸町広報委員と研修

を受けました。来町された広報委員の熱意と努力で1日も早い復興ができることを願っています。

「しちがはま議会だより」はこれからも「住民とともに」の原点を忘れず親しまれる広報を目指しさらに努力していきます。

3月11日に発生した東日本大震災の大津波は本町の沿岸部にも壊滅的な被害をもたらしました。かつてない予想をはるかに超えた大災害は多くの尊い生命を奪い、家屋を流出させ町民の平和なくらしをも一瞬に破壊しました。

今この大震災を乗り越え困難を克服し、七ヶ浜町の復興に町全体がこぞって取り組み、一日も早い安定した生活を取り戻すことが大切です。

議会は「七ヶ浜町議会大震災復興対策特別委員会」の設置を6月8日から行われた第2回定例会で可決しました。本特別委員会は、復旧・復興に向けた調査・検討を行い、町民生活の早期安定のため積極的な活動に取り組むことを目的とします。

特別委員会設置までの取り組み

日時	会議名	議題
3月24日	議員協議会	①東日本大震災に伴う今後の対応を協議
4月11日	議員協議会	①大震災の被災状況などを把握 ②復旧・復興などの協議
4月26日	議員協議会	①復旧・復興などの協議 ②大震災に伴う議員報酬、旅費、政務調査費の削減、返上の協議
5月2日	議員協議会	①大震災の復旧・復興などの協議 ②委員会旅費、費用弁償、政務調査費の返上を協議
5月9日	議員協議会	①復旧・復興などに対する要請事項の取りまとめ (正副議長・各委員長)
5月17日・18日・20日	議員協議会部会	教育・総務・産業建設部会ごとに現地調査

※各議員は、3月11日から24日までの間は、各地区避難所等で支援活動及びボランティア活動に従事

町に要請しました

3月24日、町に対し議会からの要請事項として、次の2点を申し入れました。

- 避難所以外の場所での避難者や自宅で食糧を調達できない方への支援体制の充実
- 応急住宅などの確保への早急な対応

5月16日、町に対し議会は東日本大震災に関する12項目の緊急要望書を提出
(詳細はP 4～5に掲載)



阿部 和夫 議員

安全と安心を

町長 住宅復興を優先

問 これまで安全安心なまちづくりに取り組んできたが、一瞬にして住民の生命と財産を失ったことは非常に残念である。地盤沈下により高潮や大雨の後に路上冠水や宅地などが浸水し、住民は不安を感じている。早急に解消すべきであるがその対策は。

答 町長 地盤沈下は、三陸沿岸を中心とした各地で大きな問題となっている。

本町でも代々崎浜や東宮浜等で発生して、住環境に影響を与えかねない状況である。防波堤、防潮堤の復旧復興は、安全な住環境の確保や産業基盤の安定を念頭に、今後の復興計画策定に向け準備を行っている。

当面の復旧は港湾管理者である宮城県が進めているが、さらに早急な対応を求めていく。

問 被災された方が住んでいたところから安全な高台等への集団移転や個別移転も考えられるが町独自の支援策は。

答 住宅復興を最優先にするため、方針の骨子を決定した。内容は、引き続き本町に住み続けられることを条件に、安全安心で魅力あるまちづくりを目指し、居住パターンを4つに分類した。

- ①同じ場所に住み続けることができる。
- ②全壊で被災証明を受けた方は市街化調整区域内（通常は建築が規制される）への開発許可を認める。
- ③膨大な費用がかかり将来の財政負担になる可能性があるため、集団移転は今のところ行わない。

④経済的に新築が困難な被災者を対象に、7月以降調査を実施する予定である。ニーズを把握し今後の住宅復興計画に反映させたい。

答 町独自の支援策はすでに実施している市街化調整区域への緩和等、個別案件ごとに対処していく。



路上冠水の清水地区 (代ヶ崎浜)



千葉志美枝 議員

要援護者の避難所確保を 町長 福祉避難所を指定し締結したい

問 大規模な東日本大震災により、津波被害が大きかった本町でも多くの人が避難所生活を送った。今後同じような災害が起きた場合、一般の避難所では生活が困難な障がい者（身体、知的精神）の避難所の確保をどう考えていくのか。

答 町長 3障がいの避難所の確保は大きな課題である。特に精神障がい者は環境の変化で過度のストレスが要因となり病状の悪化も考えられる。身体、知的、精神それぞれに対応が必要であり、今後は広域的な課題

として宮城東部自立支援協議会へ提案していく。

問 寝たきりの人でも在宅介護を行っている人たちもいる。今回重度の介護者を抱え避難に戸惑い大変苦労したとの切実な声もある。確保策をぜひ考えていくべきではないか。

答 震災発生後町内3カ所の介護施設を町で指定し、要介護者の避難と安全確保に努めた。これまでは福祉避難所としての位置付けはなかったが今後は関係機関と連携したい。

「花と緑」推進事業の今後は

生涯学習課長

地区の推進委員会と協議したい

問 有事の際にスムーズに避難し尊い人命と生活が守られるよう、町内外の特養老人ホームや障がい者福祉施設へ日頃から災害時における指定避難所として締結を行うべきでは。

問 今回の大震災で沿岸地区は壊滅的な被害を受けた。花壇にも流失や破損の影響がある。今後どのような形で花と緑のまちづくり事業の再生を図っていくのか。

答 生涯学習課長 町内13地区に50カ所あった花壇が沿岸地区で10カ所消失した。それぞれの特色を生かし今後は地区と協議を検討したい。



再び町内を花いっぱいにする

答 低価格で安定した角田市の業者と長年契約しているが、例年の注文数には対応できるとのことであった。

答 被災した地区もありある。秋の配布は無理で様子を見ながら各地区の推進委員会と協議し対応したい。



日頃の備えがあれば安心

問 苗の納入業者に震災の影響はなかったか。今後町が購入を希望する苗の数は確保できるのか。

問 年2回苗の植付けも行ってきたが、今後も従来どおり希望する苗の配布は可能なのか。



佐藤 梶信 議員

まちの再建に向けた 高台移転をぜひとする

町長 国の施策を見極めていく

問 災害に強い新たなまちづくりのために津波防災対策の見直しが迫られている。海岸利用者や磯場などで作業している漁業者等の避難路を整備する考えはないか。

答 町長 既存の高台への避難路がある。被災した住民が以前の居住地に戻りどのからいの方が漁業を続けるのかを見極め必要に応じて整備を検討する。

問 防波堤、防潮堤の破壊や護岸の地盤沈下で危険な状況であるが対応は。

答 住環境に大きな影響を与えかねない状況となるので震災復興計画に基づき関係団体と連携して復旧を進めたい。

問 防潮堤の高さは津波の到達ライン以上で整備する必要があると思うが。

答 現在の高さで考えている。

問 津波の再来を想定し高台移転を求める住民と長年暮らした場所に居住することを願う住民への対応と取り組みは。

答 高台移転は国や県などの新たな制度創設の動きを見て幅広く検討を行う。また、現在の場所への居住は、規制せず住むことができる。



高台へと続く奥尻島の避難路

問 避難所の食費が1010円から1500円になった。食事の改善は。

答 町長 県の調査では栄養バランスに配慮されている。

問 2年後以降の公的住宅確保として、仮設住宅扱いの民間賃貸住宅を町契約で確保する考えは。

答 住民ニーズを把握し、住宅数の確保に努める。

問 一部損壊住宅の修繕事業として、住宅リフォーム助成の実施は。

答 住宅リフォーム助成より、生活再建を優先したい。

問 すでに個人で撤去した危険ブロック塀等撤去費用助成はどうなっているのか。

答 5月23日に県から示された。詳細が決まり次第、周知したい。

問 住宅再建者の活用促進のため、町住宅建築資金制度と町勤労者生活安定資金融資要綱の貸付利率補てん・返済期間延長を。

答 今後の申請状況を見据え、検討したい。

問 被災失業者を雇用創出基金事業で、復旧・復興を。

答 必要数の雇用確保に努める。

問 被災者・住民の負担軽減のため、ぐるりんこ料金を軽減し現料金の改善を。

答 これ以上の減額は受益者負担の原則から厳しい。

問 防災証明、被災届出の制度の周知は。

答 広報紙、ホームページ、避難所等で知らせている。

問 粉塵・アスベスト発生の恐れのある災害ゴミ集積所での従事者の環境衛生管理は充分か。

答 労働安全衛生法に基づき、指導していく。

問 義援金、弔慰金、見舞金の支給状況は。

答 見舞金は5月31日に振り込みをした。日赤等の義援金は6月中の振り込み手続中。

問 事業・家屋再建のため、二重債務をマイナからではなく、ゼロからのスタートになるよう、国に働きかけを。

答 国及び国会、金融機関等で諸提言をしている。動向を見据えながら、働きかけていきたい。

問 震災で在宅避難している独居、高齢者、障がい者への民生委員、区長の支援体制はどうだったのか。

答 民生委員は、3月22日の緊急会議後、各自各地区で支援活動を行ったと聞いている。

問 震災復興基本計画は地区全員参加の協議会で一人一人の意見が反映できるように。

答 地区の代表からなる震災復興委員会で行う。

問 村井県知事の水産特区に対する町長の姿勢は。

答 漁業を否定するものではなく、経営効力を重視した上での提言であると認識している。

問 被災店舗・工場再建者への支援に「社会資本整備総合交付金」活用と町独自乗せで地域経済活性化を。

答 国の中小企業向け融資制度がある。多賀城・七ヶ浜商工会、関係機関と協議し、検討していきたい。

災害の復旧・復興対策は

町長 住宅再建を最優先に



歌川 渡 議員



仮設入居で新たなスタートに

臨時議会

補正予算で5億3289万円を追加

1月20日第1回臨時会を開き、平成22年度補正予算を審議し原案のとおり可決しました。主なものは、子宮頸がん、ヒブワクチン接種費用への補助などです。

問 健康増進課長 1回目から2回目までは1カ月、3回目までは5カ月の間隔、医療機関は塩釜医師会管内52カ所、本町では4カ所、受け付けは平日の他、土・日も可能なところがある。

問 子宮頸がんワクチン接種の間隔、医療機関受け付けは。

質疑



無料接種ありがとう

子宮頸がん、ヒブワクチン接種へ全額補助!!

問 地域活性化事業の基準と内容は。

答 町長 数種類のメニューから各自治体に合う新事業という基準がある。本町では図書センターの視聴覚機器の購入などに充てた。

問 松ヶ浜小の耐震補強工事は仮校舎を用意するのか。

答 教育総務課長 規模から考えて必要としない。

問 今回の松ヶ浜小、七ヶ浜中の耐震補強工事では本町の学校施設すべての工事が完了するのか。

答 今回ですべて終了する。

おもな内容

- 七ヶ浜中校舎耐震補強他 3億3000万円
- 松ヶ浜小校舎耐震補強他 1億5200万円
- 子宮頸がん等ワクチン接種委託料 694万円
- 視聴覚機器・映像ソフト購入 320万円



提出先

- 衆議院議長
- 参議院議長
- 内閣総理大臣
- 農林水産大臣

議決結果 反対なく可決

意見書を国に提出

TPP交渉への参加を行わないよう求める

3月定例会

◆主な内容

日本がTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）に参加することになると、農業大国であるアメリカやオーストラリアなどからの農産物輸入の完全自由化は避けられない。それにより生産減、雇用が失われるなど農林水産業に壊滅的な打撃を受けることから、参加を行わないことを国に強く求めるもの。



鈴木 勝美 議員

大震災で教育施設の被害は

教育長 七ヶ浜中校舎は半壊

問 七ヶ浜中学校校舎の被害は甚大である。今後建て直すことになると思うが、木造建築は考えられないか。理由は①コストが安い。②揺れに対する耐久性がある。③環境にやさしい。④県でも国産木材を奨励している。

答 教育長 校舎の被災程度判定は半壊。補強で耐震性能を得ることは困難であり、改築の認識にたつて検討している。木造にするか鉄筋コンクリート造りにするかは、具体的な回答の段階にない。

問 向洋中学校は築21年であるが、壁に亀裂が見られ、放置すれば大

答 被災度判定の結果、構造として健全と報告を受けた。耐震壁は多少の亀裂が見られるものの十分な耐久力を有している。緊急的不安材料も少なく順次補修を行う。

問 東宮浜、代ヶ崎浜は高潮時には町道まで浸水する。漁業関係者や地域住民も不安を抱えている。不安解消の早急な対策は。

答 港湾管理者である宮城県に依頼している。町管理の漁港は激甚災害認定に向けた災害査定資料の作成をしている。査定が決まり次第優先して復旧に取りかかりたい。



七ヶ浜中校舎内

海底のがれき撤去を

町長 操業の妨げにならない

問 海底におびただしいがれきが沈み漁ができないと漁業関係者が悩んでいる。がれき撤去の対策は進んでいるのか。

答 町長 5月末まで操業を自粛したが、6月からの漁に向けて試験操業をした。海底のがれきは少なく、本町の漁業者の調査結果から操業を妨げる量ではない。

原発事故の影響は

問 放射性物質が海流により北上した場合、漁への影響が懸念される。漁獲物が汚染され、風評被害が出た場合の対策を考えているのか。

答 東北大学の協力により放射線量の測定をした。その結果、数値は問題なく、漁への影響はないと考えている。

3月定例会



正 憲 岡崎 議員

防災における地域見守り体制の充実を

町長 要援護者の支援対策を図りたい

問 本町では自主防災組織と民生委員の活動は別になっているが、情報を共有した見守り的な体制はできないか。

答 23年度事業として実施する。障がい者への配布も検討したい。

町長 地域福祉推進会議で要援護者への支援対策を協議し、具現化を図りたい。

問 災害時の緊急通信手段としてアマチュア無線家との協力協定を行う考えはないか。

答 有効と考えるので実施を協議したい。

問 救急医療情報キットを高齢者等へ配備する考えはないか。



3月10日・11日の2日間で6人の議員が一般質問を予定していましたが、11日午後2時46分の地震発生で歌川議員の質問ができませんでした。質問した5人の内容を要約してお知らせします。



予定していた質問を紹介します。
歌川渡議員の質問通告
①町民バス「ぐるりん」がより多くの町民が利用できるように
②子ども医療費無料を中学生まで拡大を
③「住宅のリフォーム助成」事業実施を



初雄 鈴木 議員

教育環境と学力向上の対策は

町長 家庭学習の習慣化でレベルアップを

問 全国学力テストの結果は全国・県より下回った。教育委員会や学校は課題把握と対策を。

問 全ての教科の基礎となる読解力の向上が重要と思うが。

答 教育長 学校教育の重点施策・重点事業に「教師力の向上」「非常勤講師の有効活用」「早寝・早起き・朝ごはん」などを掲げている。教育委員会と学校は課題を共有し連携して学力向上に努めている。

答 朝読書や読書に触れ合う時間を設けている。

問 教育環境は、他と比較しても劣っているとは思われないが成果が出ないのはなぜか。不十分な事業の検証と対策は。

答 朝読書や読書に触れ合う時間を設けている。

海を活かした観光開発を

町長 関係団体や漁業者の協力で

問 七ヶ浜の自然が多い素晴らしい景観を漁船で案内し、観光客が海から眺めて楽しむ滞在型の観光開発に取り組む考えはないか。



漁船の体験証明書

答 町長 漁業者の多くは通年型漁業を営み現状は難しいが、現役を退いた方々や関係団体の協力で海を活かす体験型の観光開発を考えている。

問 岩手県田野畑村をはじめ成果を上げている先進地は強力なリーダーが住民をリードしているが本町の取り組みは。

答 滞在型の実現が可能なのは新たなアイデアを集約できるリーダーの養成を考える。

町長 関係団体や漁業者の協力で



栄一 津 梅 議員

問 度は全国平均を大きく上回り危機感を持っている。アレギー対策は現在の調理機器と人的配置で除去給食は無理であるが栄養教諭は食育の強力な推進の必要からぜひ配置を望みたい。

子どもたちの食育推進は

町長 栄養教諭の配置を望みたい

問 児童生徒へ調和のとれた給食の提供で肥満や食物アレルギーなどの対策に実践的な指導を行う、栄養教諭が制度化されたが必要性はどうか。

答 教育長 本町の肥満度は全国平均を大きく上回り危機感を持っている。アレギー対策は現在の調理機器と人的配置で除去給食は無理であるが栄養教諭は食育の強力な推進の必要からぜひ配置を望みたい。



久博 糸 議員

長期総合計画のやり残しは

町長 老人センター改修など

問 平成22年度で町の長期総合計画が終了する。目標のほとんどは実現したというが、やり残したことは何か。

答 町長 基本理念の心ゆたかなまちを実現するため目標を設定して取り組んできた。やり残したものは
①老人センターの壁やカーペットの張り替え
②代ヶ崎海岸線の拡幅
③防火水槽の新設である。

問 ある不動産ランキングで本町は、住みやすいまちとして東北228市町村の中で7位と評価が高い。定住人口誘致策に活用する考えはないか。

答 町長 基本理念の心ゆたかなまちを実現するため目標を設定して取り組んできた。やり残したものは
①老人センターの壁やカーペットの張り替え
②代ヶ崎海岸線の拡幅
③防火水槽の新設である。

問 国際村の周辺が整備された。町民憩いの場として活用できないか。

答 町長 現段階では考えていない。今後も自然との調和に取り組むたい。

防災対策の整備推進を

町長 対策を講じ一層の推進を図る

問 町の備蓄倉庫に非常用の食糧や生活必需品が確保されているが、緊急の対応を考慮し各指定避難所ごとに備蓄すべきでは。

答 町長 地区の公民館等は備蓄場所の確保が困難であり、保管倉庫の整備も必要となる。町内3カ所の小学校に食糧を除く毛布、アルミロールマット、簡易トイレなどを配置し緊急時に対応したい。

問 各分団とも消防団員の確保に苦慮しているが団員確保策をどのように考えているのか。

答 町長 各分団とも消防団員の確保に苦慮しているが団員確保策をどのように考えているのか。



演習に励む消防団員



枝美 志美 議員

こんな質問もしました
大腸がん検診をクーポン券で
町長 国の事業内容を見極める

平成22年度町村議会広報全国コンクールで「しちがはま議会だより102号」が最優秀賞に選ばれました。さらに宮城県町村議会広報選考会で「議会だより106号」が特選に選ばれ、昨年の国・県両方の成績を上回り最上位のダブル受賞となりました。プロの先生方のご指導や先進地の視察などで学び、基本となる「親しまれ」「読まれる」議会だよりの発行を心がけ努力したことが誇れる大きな賞を頂けたことと思います。今、全国的に議会活性化に向けた取り組みが進められ、住民との窓口となる議会だよりのレベルアップが求められています。今回の受賞に満足せず、「ありのままに」「分かりやすく」の原則を心がけ町民が参加する議会だよりの発行に努めます。



町民の皆さんからお寄せいただいたご意見、ご要望などを紹介いたします。どしどしお寄せ下さい。お待ちしております。

町民の声

渡辺 静子さん
(吉田浜)



つかの間の休息

忘れもしないあの3月11日午後2時46分大きな地震とともに山より高い津波が太平洋から我々の町をめがけアツと思う間もなくのみ込んでしまった。言葉にならずただただあぜんとながめるだけでした。涙さえ出ない途方に暮れている所になんと雪が降って来るではないですか。どうしてこんなにひどい当たり方をするのだろうかとつくづく思いました。吉田浜の避難場所で町の人、区長さん始めボランティアの方々に助けられどんなに心強かったか知れません。そんな中で被災地に思いもかけない秋田県への三泊四日のおさそいが来たのです。一寸とまどいを感じはしましたがお国が負担して下さるとのことで私たち12人は甘えると同時に心踊らせました。1日目は疲れをいやし2日目はみんなで雑談しながら身体をいやしました。3日目は森岳温泉の計らいで男鹿半島の方へと足をのばさせていただきました。男鹿の入道崎日本海を一望のもとに見渡す風景は本当にすばらしく心がなごみました。それともう一つ途中菜の花ロードの一本道がすごくきれいでした。2キロ800メートルとのこと。こんなにまでしていただいた全国の人たち、地域の人に本当に心からの感謝を申し上げると同時に私たちは力を出してがんばるつもりでいます。本当にありがとうございました。

議会を監視するのはみなさんです。

— 次の定例会は9月8日開会予定です —

面倒な手続はございません。どなたでも気軽に傍聴することができます。ぜひお越しください
詳しくは議会事務局まで TEL 357-7435
または、町ホームページ「町民便利帳」をご覧ください。 <http://www.shichigahama.com>

編集後記



●3月11日の大震災で亡くなりの方々のご冥福と、被災者に心からお見舞いを申し上げます。

自然は人の心に安らぎを与えますが時には悲しみも与えます。あの雪の降る寒い夕方突然襲った大津波は安住の地であったはずの町が3分の1まで浸水し、多くの犠牲者と、土地や家屋を奪い去り長い間に築かれてきた地域コミュニティを崩壊させるのではないかと心配しています。

今こそ町民が一体となり「がんばろう七ヶ浜」を合言葉に力を合わせ復興に向い前進してまいります。

梅津 榮一

- 議会広報調査特別委員会
- | | |
|------|-------|
| 議長 | 阿部 慶也 |
| 委員長 | 梅津 榮一 |
| 副委員長 | 岡崎 正憲 |
| 委員 | 鈴木 初雄 |
| 委員 | 糸久 博 |
| 委員 | 鈴木 勝美 |
| 委員 | 千葉志美枝 |